

研究題目 人とかかわり合いを大切にし、思いを高めることができる児童の育成
～コミュニケーションスキルの活用を通して～

研究要項

1 研究のねらい

本校では、E S Dを継続して行っており、総合的な学習部会での発表は、本年度で5年目となる。E S Dとは、「持続可能な開発のための教育」と訳され、「持続可能な社会の担い手を育む教育」と言える。

発表1年目は、「かかわる・つたえる・つながる」のキーワードをもとに、地域の人材や教材に目を向け、1年間の総合的な学習の時間を見通したE S Dカレンダー・年間指導計画を作り、E S D活動の基礎をつくった。2年目は、子どもが主体的にE S Dに取り組めるよう話し合い活動に重点を置き、K J法やシンキングツールを用いて、出された意見を誰もが構造的に分かるように工夫した。3年目は、これまで行動面に重点を置きがちであった取り組みを見直し、思いやりや郷土愛をテーマとした題材を道徳で取り扱い、E S Dとの連携を図りながらさらなる活動の充実を図った。4年目は、児童が話し合い活動の中で、別の視点から問題について考えたり、他の児童の意見を聞いたりして、新しい考え方や見方を再発見し合う場面を、「高め合い」として設定し、研究を進めてきた。そして、本年度は、コミュニケーションスキルの活用に焦点を当てていきたい。本校のE S Dは、人権教育を大きな柱として展開されており、今までも人権教育や話し合いの「傾聴」という場面で、コミュニケーションスキルは育てられてきた。しかし、ややもすると今まで行われてきた人権教育という枠組みの中で捉えられ、それがE S Dにおいて上手く機能してきたとは言い難い。そこで、本年度はこの部分の改善を図り、人権教育を柱とした本校独自のE S Dをもう一度見直したいと考える。人権教育とE S Dの連携をより強化し、コミュニケーションスキルの活用を通して、人とかかわり合いを大切にしたいE S Dに生かせるよう見直しを図っていきたい。

甚目寺小の5年生は、ふるさと甚目寺の産業に目を向けてE S Dの取り組みを行っている。甚目寺に古くから伝わる刷毛作りを今も受け継いでいる方、甚目寺を拠点に活動の幅を広げている企業の方、2月に行われる甚目寺観音づくり朝市に出店する5年生のお店に、お客さんとして来てくださる地域の方々など、それらの人々とかかわる機会が児童には、たくさんあると思われる。その際に、国語科と連携を図りながら、取材におけるインタビューの仕方やコミュニケーションのとり方などを習得させ、E S Dの中で活用していきたい。

また、今までと同様、学級や学年の仲間と協力して取り組むための人間関係づくりも重視し、よりよい人間関係を育むためのコミュニケーションスキルの習得もあわせて行っていきたい。

2 研究仮説と方法

(1) 研究仮説

目指す児童像を次のように掲げ、研究のねらいをもとに研究仮説を設定した。

目指す児童像

- I 地域の産業に興味をもち、自ら考え、主体的にかかわる児童
- II 人の気持ちや思いに気づき、地域の将来のためによりよく行動できる児童



研究仮説

仮説Ⅰ 道徳で自作教材を使い、郷土の産業に携わる人々の思いにふれる一方で、国語科で学習する敬語の使い方や取材の仕方をもとに、地域の産業について調査したり、地域の産業を支える人とかわることで、地域の産業に興味関心をもち、今までよりも一層主体的にかかわろうとするであろう。

仮説Ⅱ 互いの行動や存在を認める場面を設定することで、よりよい人間関係のつくり方を学び、学級や学年で協力してふるさと甚目寺に貢献するための行動をとることができるであろう。

(2) 研究方法

ア 仮説Ⅰに対しての手だて

- 手だて① 道徳と連携し、刷毛の創始者である山崎政三郎の苦勞とふるさとに対する思いにふれる。
手だて② 地場産業である刷毛づくりについての出前授業を行う。
手だて③ 国語科と連携し、甚目寺小にある聞く・話す・話し合いの能力表と学習スキルを見直し、インタビューの仕方やあいさつ、敬語などのコミュニケーションスキルの定着を図る。
手だて④ 地域の企業やお店、農家の方に直接会いに行き、仕事をする様子を見学したり、インタビューを行ったりする。

イ 仮説Ⅱに対しての手だて

- 手だて① 友達の行動をしっかりと観察し、互いを認め合う姿勢を育てるため、ほめ言葉のシャワーを行う。
手だて② 野外活動に向けて学級や学年が協力するためには、相手を思いやる心が大切であることを道徳の授業で高める。
手だて③ 自分の気持ちを上手く伝え、よりよい話し方や表情を知るため、ハッピートークトレーニングを行う。

3 主な研究実践計画

- (1) 野外活動前(5月)…**道徳** 〈思いやり〉
(2) 地場産業「刷毛」の出前授業 6月上旬…**道徳** 〈郷土愛〉 刷毛の創始者、山崎政三郎の苦勞
ふるさとに対する思い
「わたしたちの甚目寺」などをもとに
(3) 国語「敬語」「きいて きいて きいてみよう」6月 コミュニケーションスキルの習得
(4) 学級活動「ほめ言葉のシャワー」通年 ・ 学級の友達のことをよく観察し、友達のよいところや頑張っているところを見つける。
・ 友達の話に耳を傾けてきく姿勢を身につける。
・ コミュニケーションスキルの習得
(5) 学級活動「ハッピートークトレーニング」学期ごとに1回 ・ よりよい人間関係の構築
・ 言葉の大切さ
・ コミュニケーションスキルの習得